出了、云々山中忽寂寥、登臨遊放、入湯屋任意浴之、晩頭左京大夫送使者、只今下著可訪由示送、于時志深庄成實朝臣送椀飯、即送之、又被尋獸炭、求而送之、

〔守貞漫稿十八雜服附雜事〕嘉永二年印行、古風ト流布トヲ、相撲番附ニ擬スル、○中略古風方ニ曰、○中略駱駝炭極柔下品炭也

炭産地

〔毛吹草三〕河内　横山白炭　和泉　鍛冶炭　摂津　一倉炭此所ヨリ池田ノ市ニ出テ賣ナリ、故ニ是ヲ池田炭共云、

近江　炭

〔宗五大草紙下〕殿中さま〳〵の事

御すみは白すみとて、河内國横山と云所にやくすみにて候、

〔日本山海名物圖繪二〕炭焼圖

炭諸國より多く出る中に、日向國と紀州熊野より出るもの、其性よろし、摂州池田奥山より出るもの炭の名物也、又和泉の横山炭名品也、是は枝炭也、いづれも山に炭竈をすえてやく也、すみがまは木薪の出入勝手よき所にすゆる也、歌には小野のすみがまをよめり、小野は山城の國愛宕郡なり、

〔日本山海名物圖繪三〕池田炭

摂州池田炭は、一倉と云里にて樵にてやきて、池田の市に出す也、此炭竈は地をほりて、其上にむろを造り、跡先に口をあけ、中へくぬ木をつみ入てやく也、やきかげんを見て、ふたをするなり、ふたおそければ炭損じてあしく、又早ければふすぼりてあしゝ、とかくふたのかげん大事也、凡焼炭諸國より多く出といへ共、池田を最上とす、

〔摂陽群談十六名物土産〕一庫炭　河邊郡一庫村ノ山中ニ炭竈ヲ造、山林ノ歴木ヲ伐採、竈ニ入、口ヲ閉塞デ以土塗之、日ヲ經テ開之、市店ニ送ルノ始、先池田市ニ立ヲ以テ、世ニ池田炭ト、稱ス、今近郷ニ